

噴霧推奨

サカマキ貝駆除剤

スネイル

バスター



Snail Buster[®] 2

サカマキ貝駆除の現状

サカマキ貝は浄化槽内の微生物群や汚泥を餌としており少数なら影響はありませんが、大量に繁殖すると浄化機能を著しく低下させ、水質の悪化や悪臭の発生原因となってしまいます。

サカマキ貝の駆除には、物理的方法と化学的方法で除去する方法がありますが、網ですくい取る様な物理的方法は時間がかかり現実的ではありません。また、バキュームによる除去方法もありますが費用の面から年に何回も行えません。化学的方法では、ある程度効果がある消石灰と硫酸による駆除が普及していますが、投入量やPHの調整をしないと水質悪化を招いたり、粉立ちが激しく作業環境が悪いなどの意見が多く聞かれます。

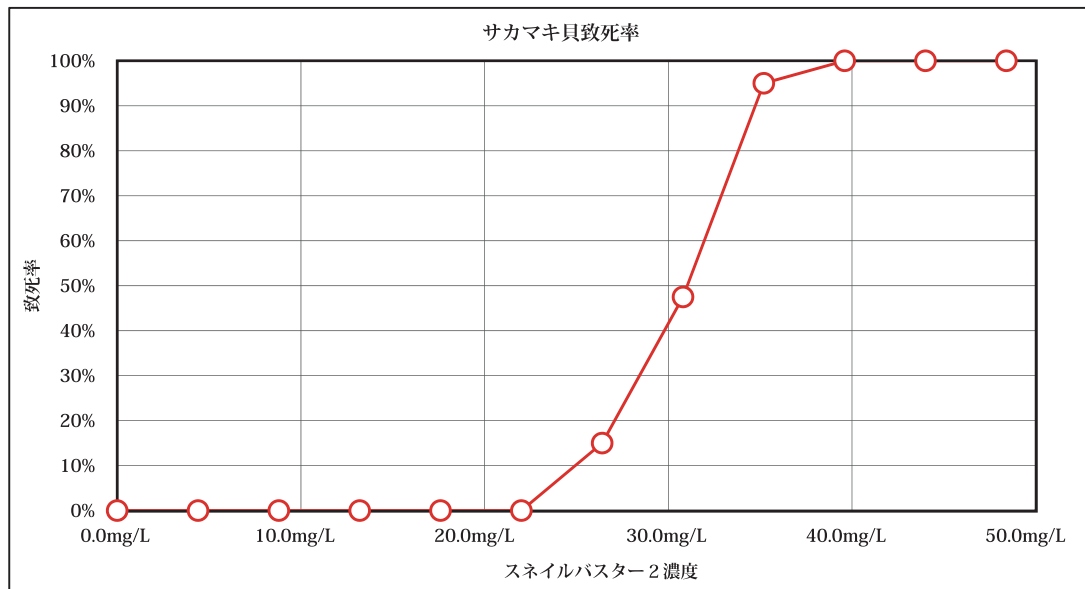
Snail Buster[®] 2の特長

Snail Buster[®] 2はタンパク質阻害物質がサカマキ貝の表皮および体内に作用して、少ない散布量かつ短時間で浄化槽壁面と浄化槽の水中に生息しているサカマキ貝を駆除します。

サラサラの濃紺色液体で取り扱いやすい性状です。

Snail Buster[®] 2の効果

(社内データ)



試験方法

9Lの循環式25℃恒温水槽に脱塩素した水8Lを計量してサカマキ貝40個体投入。スネイルバスター2が試験濃度になるように循環水槽に毎時添加してサカマキ貝の生死を判定した。生死判定はサカマキ貝の軟体部が貝殻中に収縮して全く動かない、または軟体部が貝殻外に露出したまま全く動かない個体を死滅と判定した。

注意

本試験は実際の浄化槽とは異なる条件で試験を行ったものであり、添加する濃度とサカマキ貝の致死率を保証するものではありません。実際には浄化槽の汚泥状態や滞留時間や流入水量、スネイルバスター2効果阻害物質の有無など条件により使用量や使用濃度が多めに変動する可能性があります。

Snail Buster®2の使用法

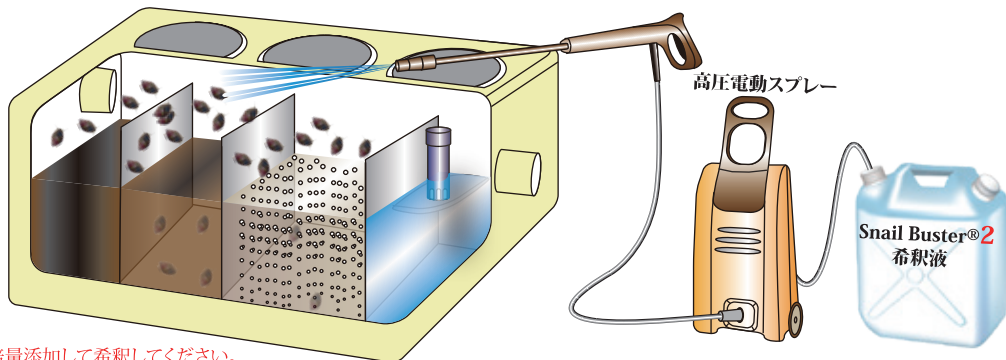
- ① 下記表を参考に Snail Buster®2を計量カップ等に計り 20Lのポリ缶に投入してください。
- ② 水道水約 20Lで均一に希釈してください。(使用する容器と希釈率は状況に応じて適宜調整してください)
- ③ 希釈した Snail Buster®2水溶液を高压電動スプレーで槽壁のサカマキ貝をたたき落としながら全量噴霧してください。
- ④ 使用後はスプレー内部を水で良く洗浄して下さい。

槽壁のサカマキ貝も駆除して増殖を抑制する事が肝要です。
(注意)自重の軽い数ミリの小さなサカマキ貝は死滅しても槽壁に付着している事があります。

サカマキ貝を徹底駆除するには効果が確認されるまで短期間で集中的に散布することをお勧めします。

Snail Buster®2の希釈液の作り方

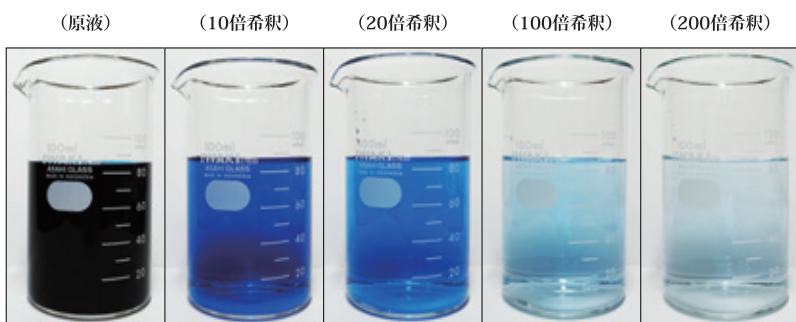
処理槽水量	Snail Buster®2 投入量	希釈量
1 m ³	100 g × 1	100 gを20 L (20 Lポリ缶×1)
10 m ³	1000 g × 1	1000 gを20 L (20 Lポリ缶×1)
20 m ³	1000 g × 2	1000 gを20 L (20 Lポリ缶×2)
30 m ³	1000 g × 3	1000 gを20 L (20 Lポリ缶×3)
40 m ³	1000 g × 4	1000 gを20 L (20 Lポリ缶×4)



※滞留時間が2 4時間以下の場合は Snail Buster®2を2 倍量添加して希釈してください。

Snail Buster®2の性状

- 性状：サラサラで無臭の濃紺色液体
- 液性：弱酸性
- 主成分：ポリアミン系高分子



Snail Buster®2の荷姿

10 kgキュービテナー (コック付)



(成分由来の沈殿物が発生する事がありますが、サカマキ貝の駆除性能に影響はありません)

① ご使用前に必ず SDS をお読み下さい。

② 目に入らないようご注意ください。万一目に入った場合は直ちに清水で洗眼して下さい。

③ 冷暗所で保管して下さい。

④ 散布はできるだけ高压電動スプレーをお使い下さい。

⑤ 使用後はスプレー内部を水で洗浄して下さい。

⑥ 廃棄する場合は産業廃棄物として処理して下さい。

死滅したサカマキ貝



日産化学株式会社

化学品事業部 ファインケミカル営業部

本社 東京都中央区日本橋 2-5-1 ☎ 03-4463-8150

大阪 大阪市北区堂島2-2-2 ☎ 06-6346-7130

代理店